

音楽診断

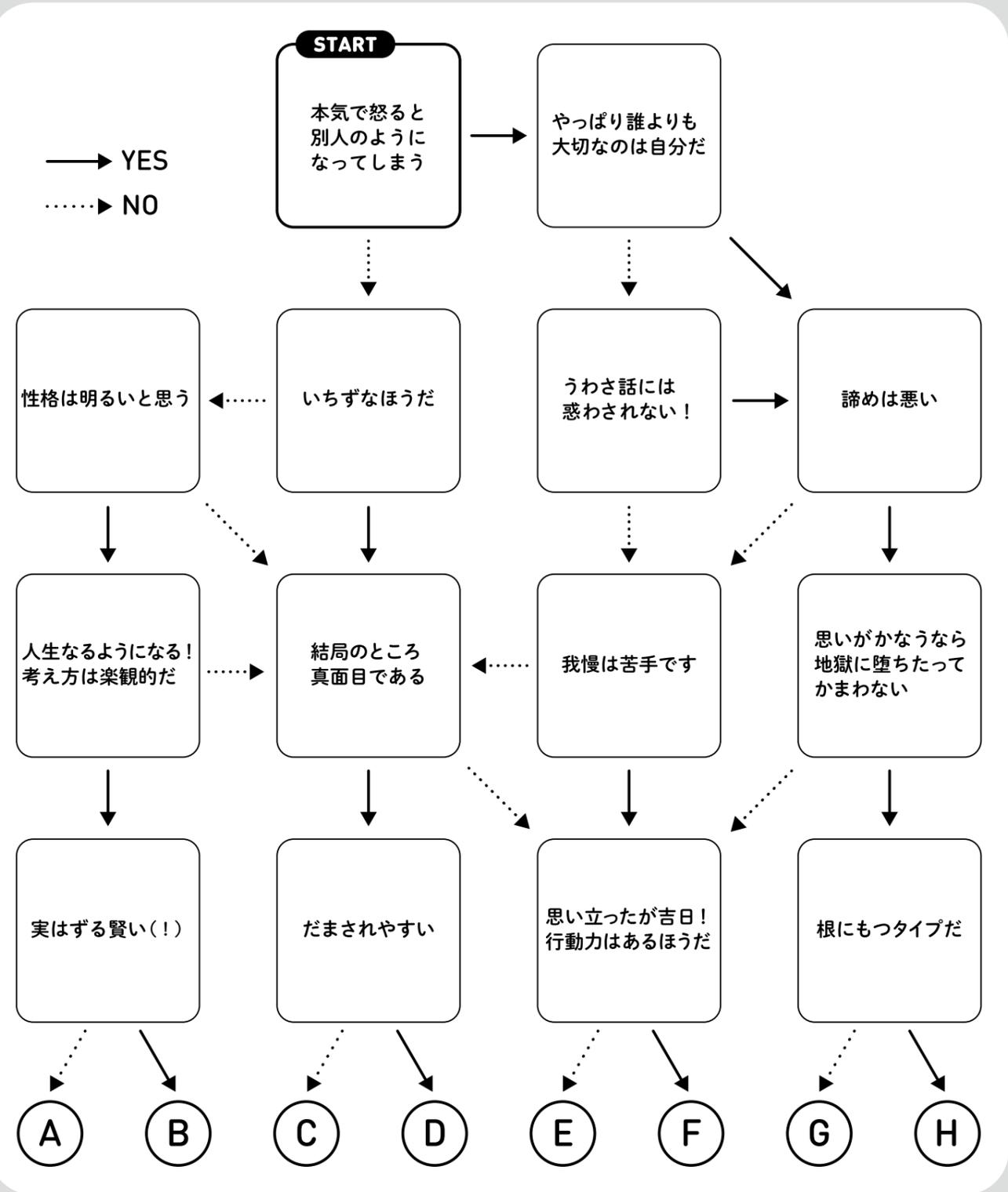
第②回

モーツァルトの名作オペラ編

前号からスタートした、教育芸術社オリジナルでお届けする音楽診断企画。2回目は、モーツァルトが書き上げた名作オペラから診断します。魅力たっぷりで個性的な8人の中から、あなたに似ている登場人物をご紹介します。

監修・解説 = 岸 純信
Text = Suminobu Kishi

あなたのタイプは？



登場人物をご覧くださいの前に……

モーツァルトのオペラあらすじ

①『フィガロの結婚』(初演:1786年5月1日、ブルク劇場)

横暴な主人の伯爵に従僕フィガロが抵抗し、愛する小間使いスザンナと無事結婚するまでを描く喜劇のオペラ。夫に顧みられない伯爵夫人の辛さや、恋に目覚めた小姓ケルビーノの情熱がドラマにアクセントを添えている。

②『ドン・ジョヴァンニ』(初演:1787年10月29日、プラハ劇場)

美男の騎士ドン・ジョヴァンニが女心を弄んだ結果、自分が殺した騎士長の霊に地獄に落とされるという喜劇と悲劇の混合オペラ。騎士長の娘アンナ、貴族の女性エルヴィーラ、村娘ツェルリーナが彼の魅力に翻弄される。

③『コジ・ファン・トゥッテ』(初演:1790年1月26日、ウィーンの宮廷劇場)

心の揺れを鋭く突く喜劇。老哲学者との賭けで青年たちが恋人姉妹の貞操を試すべく変装し、違う相手をそれぞれ誘惑。しかし、最後に全てが明らかになると、間を取り持った小間使いも含め、みな苦い思いを噛み締める。

④『魔笛』(初演:1791年9月30日、ウィーン郊外のヴィーデン劇場)

善と悪、高潔さと庶民性を対照させた童話仕立てのオペラ。正義を尊ぶ高僧ザラストロと権力欲に燃える夜の女王が対立する中、王子タミーノは夜の女王の娘パミーナと結ばれ、鳥刺しパパゲーノは恋女房と楽しく暮らす。

A かわいがられるマイペースなはずらっ子
ケルビーノ①

10代の青年。伯爵に仕える小姓でありながら、伯爵夫人への憧れをあらわにしたり、庭師の娘バルバリーナといちゃつくなど、恋に目覚めた年頃の少年として、次から次へと騒動を起こす愛すべきトラブルメーカーである。



B 実はしたたかな世渡り上手
ツェルリーナ②

村の娘。農夫マゼットと結婚したばかりなのに、ドン・ジョヴァンニから誘惑されてその手に堕ちそうになる。しかし、寸前のところで要領よく身を守り、マゼットに愛らしく赦しを乞い、彼がけがをすると優しく慰める。



C いちずで聡明なヒロイン
スザンナ①

フィガロの婚約者。伯爵夫人のロジーナに仕える小間使いだが、結婚式の当日に伯爵から言い寄られてしまい、愛するフィガロとともに、知恵を絞って伯爵をみごとにやり込み、伯爵夫人への愛も取り戻させるという女性。



D 情が深くひたむき
いざとなったら潔い一面も
フィオルディリージ③

とても生真面目な娘。妹ドラベツラが自由奔放であるのとは対照的に、最後まで恋人に忠誠を誓おうとするが、目の前に変装して現れた別の男の魅力に抵抗できず、最後は彼の腕に抱かれてしまうという人間らしさももつ。



E いやなことはいや！
我が道を突き進む
パパゲーノ④

自由人の鳥刺し。王子タミーノとの出会いで、ザラストロの城でパミーナを探し、王子の試練にもつきあう羽目に。しかし、結局は試練の厳しさに耐えられず、精神的に成長はしないが、恋人のパパゲーノと楽しく暮らす。



F 明朗快活の正統派ヒーロー
フィガロ①

元は理髪師。かつて、セビリアの町でアルマヴィーヴァ伯爵がロジーナに求婚する際に助けてやり、その縁で伯爵の従僕として城で働くが、徐々に貴族の横暴さを見せる伯爵には抵抗。才気と勇気で市民層の意地を示す。



G 人々をひき付けてやまない
強烈な存在感
ドン・ジョヴァンニ②

放蕩の騎士で飛び切りの美男。女心を手玉に取ることに何の抵抗もなく、従者レポレッツォがあきれられるも構わず、次から次へと新しい女性を狙って行動を起こす。しかし、騎士長を殺したことから運命の歯車が狂い始め、最後は地獄に堕ちる。



H 気性が激しいが愛情深い
夜の女王④

権力欲が強すぎて、夫の死後は高僧に実権を奪われてしまった女王。娘のパミーナへの愛情も有するが、その一方で、自分の力を取り戻すため、「ザラストロを殺せ」と娘を脅すなど、悪意と激しさに満ちた女性でもある。



岸 純信(オペラ研究者)

1963年生まれ。『音楽の友』『レコード芸術』『音楽現代』など雑誌や公演プログラムに寄稿。CD及びDVD解説多数。NHK『ららクラシック』、FM『オペラ・ファンタスティカ』にたびたび出演。新国立劇場オペラ専門委員。静岡国際オペラコンクール企画運営委員。大阪大学外国語学部非常勤講師(オペラ史)。